



財団を設立し、春めきを活用した活動に意欲を見せる古屋さん

現在、商品化は実現の方向で進んでおり、古屋さんはロイヤリティで社会貢献ができないかと考へた。それまでの活動から社会貢献に関する施設は運営資金を寄付に頼っているところも多い。古屋さんは

古屋さんは春めきのもちのようない匂いが特長。古屋さんはこれまで、周辺市町や民間団体、県外の自治体などに春めきを寄贈しておられる。以前は、「香りがする」程度に考えていましたが、視覚障害者への支援をきっかけに、春めきの可能性を再認識したという。

財団設立は約3年前、盲学校などへの桜の寄贈をニュースで知った民間企業から、春めきに関する商品化の問い合わせがあつたことが主な要因。

古屋さんはロイヤリティで社会貢献ができないかと考へた。それまでの活動から社会貢献に関する施設は運営資金を寄付に頼っているところも多い。古屋さんは

南足柄市で生まれた早咲きの桜「春めき」を活用した視覚障害者の支援などを目的にした一般財団法人「春めき財団」（同市塚原）が1月に立ち上がった。月初めには、春めきを県立平塚盲学校に寄贈し実質的な活動をスタートさせた。代表理事の古屋富雄さん（65、農業）は、今後の活動に意欲を見せていく。

総数は2000本を超える。

視覚障害者向けに寄贈を始めたのは2011年5年。目の不自由な人たちは桜の香りから春を感じられるのでは

ないかと考へたことを主な要因。

古屋さんはロイヤリティで社会貢献ができないかと考へた。それまでの活動から社会貢献に関する施設は運営資金を

香る桜で視覚障害者支援など 南足柄の春めき財団活動開始

将来的には、財団を通じた金銭的な援助も行う考え。同財団初の事業として、今月7日、県立平塚盲学校へ春めきを寄贈した。同校は視覚障

害者支援として初めて、春めきを寄贈したところ。それまでは苗木を寄せていたが、「植栽する場所がない」と受け取りたくても受け取れない施設もあつたという。そこで古屋さんは、苗木を容器に入れ、容易に移動できるようにした鉢植えを、モバイル春めきとして寄贈した。モバイル形式に

春めきは、桜の中ではまだ知名度が低く（品種登録は2000年）、普及にも意欲的。

すると、室内や玄関先で鑑賞できるという。古屋さんは、市職員時代に就農者支援制度を作るなど、農業振興に力を入れている。